

平成22年5月13日

2010年上海展報告

－出展、参観者数とも持ち直す－

標記展示会を参観する機会を得たので概況を報告する。

展示会名: 第20回中国国際自転車展覧会
2010中国国際モーターバイク及び部品交易会
会 期: 2010年4月27日(火)～30日(金)
参観時間: 27-29日9:00-16:00、30日9:00-15:00
開催場所: 上海新国際博覧中心
主 催: 中国自行車協会
会場面積: 10万㎡
出展企業数: 1,132社(前年比13.2%増)
参観者数: 69,485人(前年比19.4%増),
うち海外からは87の国と地域から8,813人(前年比67.2%増)
(事務局発表)

1 概況

来場者の入りについては経済危機の影響を受け低調だった昨年とは異なり、今年是对前年比19.4%増の69,485人で、2009年から11,000人以上も増加した。実際の成約額はともかく、台北展の31,665人(2010年)と比較して数だけは2倍以上となった。

海外からの参観者数も前年比67.2%増の8,813人となった。ただ、メーカー関係者によると、欧州からの来場者が昨年より好調だったが、米国のバイヤーは台北展や台中のバイクウィーク等で用件を済ませたようで、比較的少なかった。また、日本人バイヤーも前回と比べ多くなっていたが、なかには上海万博参観がてら来場したという人もいたようだ。出展企業数は前年比13.2%増の1,132社となり、ともかく規模の点では昨年から回復した結果となった。



混雑する入場登録コーナー



開幕式

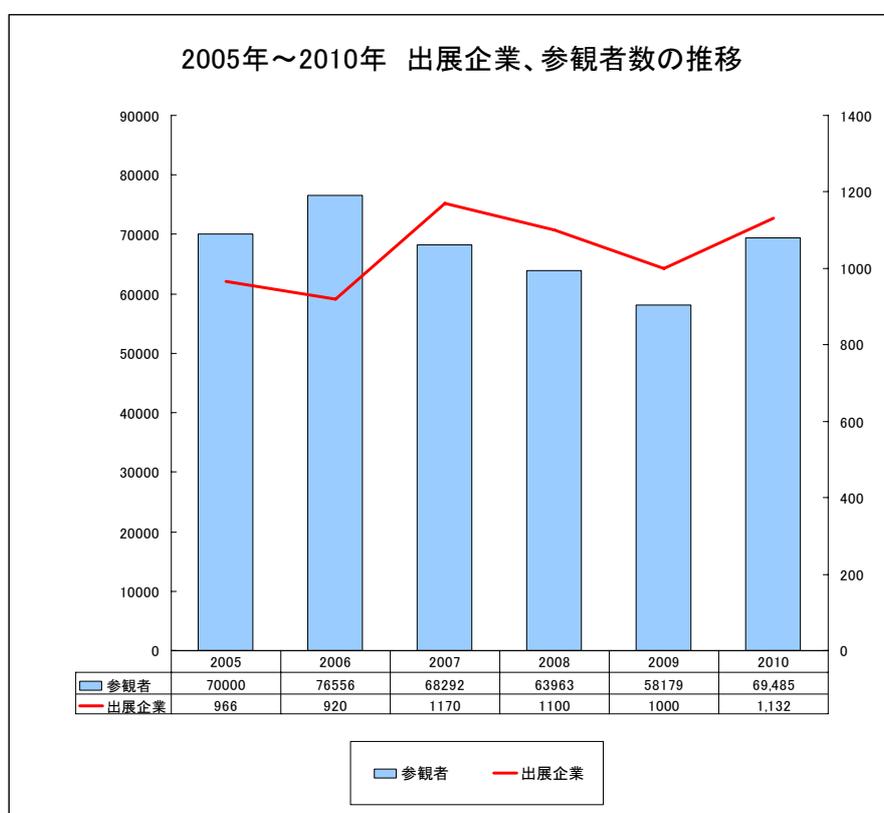
展示面積は自転車館が6ホールから7ホールに、電動自転車館は1ホールのまま、全体では7ホールから8ホールに増えた。また、今回は広大な中庭に新たに特設展示場が設けられ、天津科林と幼児車、アクセサリ、ウェアやパーツ類を製造している全国各地の中小零細メーカー、約70社に出展の機会が与えられていた。



中庭の特設展示場



特設展示場の内部



2 展示製品等について

回を重ねるごとにブースや展示方法が洗練されてきている本展示会だが、今年は大きく進歩したと感じられた。また、出展企業は華東地域の展示会だけあって、上海、寧波、広東省などのメーカーが主流で、天津など華北のメーカーの出展もあるにはあったが、天津展ほどの力の入れようには感じられなかった。

日系ではブリヂストン、キャットアイ、無錫川村、唐澤、ゴリン、タンゲセイキ、タンゲ、サンツアー、マルイ、荒井製作所などが独資としてまたは中国の合弁企業とともに名を連ねていた。しかし、例年出展している企業で今回不参加のところも見受けられた。



CAT EYE



唐澤ブレーキ



SR SUNTOUR



MARUI



荒井製作所

また、製造機器の分野で新しく出展した唐山松下産業機器は溶接機の専門メーカーであるが、90年代から台湾の自転車メーカーへ溶接機械を納めた松下アルミ合金溶接機器の技術を応用した最新式のアルミフレームの回転式ティグ溶接設備を展示し、中国市場での販売に力を入れる姿勢を示していた。



唐山松下産業機器

自転車についての今回の特徴を挙げて挙げるなら、炭素繊維であろう。昨年もカーボン製品はあるにはあったが比率は低かったように思う。今回ジャイアントはアルミ合金フレームを減らし、「炭織元年」と銘打ってカーボンフレームのMTBやロードバイクを、また、メリダもカーボンフレームの高価格帯MTBを最も前面に展示していた。このほか新興企業で最大級のブースを設置し、多くのカーボンフレーム製品を展示・アピールしている企業もみられた。さらに主催者側も炭素繊維を新素材として取り上げたフォーラムを開催しており、欧米や台湾の展示会に比べ周回遅れの感のある上海展だが、今後徐々にカーボン製品が増えていくのではないだろうか。

電動自転車ではやはりリチウムイオン電池の増加であろう。本展示会では近い将来予想される中国国家標準の改訂を見越したのか、各メーカーは国家標準を超過したスクータータイプの電動車を減らし、標準に適合した所謂「軽便型」電動自転車や欧州市場向けの電動アシスト自転車を増やしたこともあり、コストは低いもののサイズや重

量の点で劣る鉛電池に代わって小型、軽量などの利点のあるリチウム電池が増えていた。



三洋リチウム電池仕様の巨大の電動車



欧州市場向け電動自転車

電動自転車の展示ホールは一つだけだったが、自転車メーカーは改良した電動自転車を次々に発表し、また、幼児車などで有名な好孩子(Goodbaby)が Geoby ブランドで欧州向けにリチウム電池を装着した成人向け電動車を発表し新規参入するなど電動車を巡る競争は新たな展開に入っている。



好孩子は成人向け電動車を出展

ところで、日本の製品安全協会は最近、江蘇省の昆山に連絡所を開設したが、今

回、江蘇檢驗檢疫自行車檢測中心と共同でブース出展していた。中国語のパンフレットも作成し積極的な業務紹介を行っていた。



製安協の昆山連絡所ブース

最終日の30日は上海万博開幕式(4月30日)にぶつかり、各国要人の通行に伴う規制によって道路が混雑する可能性があったため、それを回避するため午前中からブース撤去が始まり、今回の展示期間は実質27日から29日までの3日間の短いものとなった。

次回は2011年5月4日(水)～7日(土)の日程で開催される予定である。

以 上

(上海事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

